

話題あれこれ

網走でオホーツクの流水を堪能

2月6日～8日、釘丸久子議員は友好都市である網走市へ友好交流訪問団として参加してきました。友好都市を締結したのは平成17年2月5日。ちょうど10周年になります。7日は第50回目の流水まつり、流水



つり、流水砕氷船「おしろら」に乗船しました。前回行ったときは、流水が接岸せず、ずっと沖まで行ってもシャーベット状の海面が続いていました。今年は、厚

30～40年で流水が来なくなる!

ンチくらいの氷がびっしり張っています。そこを砕氷船が突き進んでいく様子は豪快です。この日は風がなく、気温も3℃位で、あまり寒さを感じませんでした。はるか遠く知床半島の山々が雪を抱いてくっきりと浮かんでいました。

今回はしっかりと流水を堪能しました。

流水は、中国とロシアの国境を流れるアムール川がオホーツク海に入り、海水より軽い水分が氷結して、北寄りの風や海流にのって徐々に南下しながら、大きく成長したものです。毎年1月下旬頃、オホーツク海沿岸に姿を見せるそうです。流水は豊富なプランクトンをオホーツク沿岸にもたらし、それが魚たちの餌になり豊かな漁場をつくります。

ところが、地球温暖化の影響で、このままいけばあと30年から40年で、流水は来なくなるといわれています。北海道の豊かな海の将来が危ぶまれています。

厚木市では2月4日まで「環境基本計

平和を願う俳句が

網走市の夜市(屋台村)で入った市内案内所にあった俳句です。

「初風や いくさなき世の七十年」

この俳句が最初に書かれていたのに会の人々の思いが感じられました。



1年で1万人増えた時代も 厚木市60年の人口の推移

前回のニュースで厚木市の人口の推移をお知らせしたところ、もっと細かく知りたいという声がありました。1万人増加するのにかかった年月、その時の特徴的な事柄をまとめました。

1955年(昭和30年) 2月1日市町村合併で、人口3万1000人、5万人になったのが1962年10月	国道246号が全線開通
6万人 65年 6月(2年8カ月)	昭和橋・もぐり橋開通
7万人 68年 3月(2年9カ月)	東名高速道路東京～厚木間開通
8万人 70年 4月(2年1カ月)	市庁舎完成
9万人 72年 2月(1年10カ月)	消防庁舎完成
10万人 73年 9月(1年7カ月)	子ども広報第1号
11万人 76年 2月(2年5カ月)	小田急本厚木駅舎完成
12万人 77年12月(1年10カ月)	
13万人 79年 3月(1年3カ月)	休日夜間診療所スタート
14万人 80年 3月(1年0カ月)	南部学校給食センター完成
15万人 81年 6月(1年3カ月)	
16万人 82年12月(1年6カ月)	婦人会館・保健センターオープン
17万人 84年 9月(1年9カ月)	地下道・バスセンターオープン
18万人 86年 9月(2年0カ月)	
19万人 89年 4月(2年7カ月)	荻野運動公園競技場オープン
20万人 91年 7月(2年3カ月)	厚木中央公園地下駐車場完成
21万人 96年 9月(5年2カ月)	あゆみ橋開通
22万人2002年 4月(5年7カ月)	特例市としてスタート

79年3月から80年3月までの1年間で1万人増えています。児童・生徒急激な増加で、学校建設のラッシュになりました。また年度途中でクラス増をした学校もありました。今年1月1日の人口は22万5133人、9万6396世帯です。

パブリックコメントに参加しましょう

次の計画についてパブリックコメントを行います。
積極的に意見を述べましょう。

対象事業	期間	担当課
公共施設最適化基本計画	平成27年2月16日～ 3月17日	企画政策課 (225-2450)
スポーツ施設整備推進計画	平成27年2月16日～ 3月17日	スポーツ政策課 (225-2531)

